

学校法人聖学院
聖学院広報センター所長 山下 研一
〒114-8574 東京都北区中里 3-12-2

国際金融シンポジウム「黒字亡国論」が行われます

聖学院大学総合研究所では、5月12日（金）18時より国際金融シンポジウム「黒字亡国論」を行います。基調講演として『黒字亡国論』（文春新書）の著者、三國陽夫氏（三國事務所代表取締役）をお迎えし、後半、速水優氏（前日本銀行総裁、聖学院大学全学教授）、眞野輝彦氏（聖学院大学大学院・総合研究所特任教授）等によるパネルディスカッションも行われます。

記

国際金融シンポジウム「黒字亡国論 - 構造改革・意識改革」

日時 5月12日（金）18:00～20:00（会場 17:30）

場所 聖学院大学ヴェリタス館1F教授会室

主催 聖学院大学総合研究所

後援 埼玉経済同友会・埼玉商工会議所連合会・上尾商工会議所

プログラム

【基調講演】 18:10～19:10

「黒字亡国 - 対米黒字が日本経済を殺す - 」三國 陽夫（三國事務所 代表取締役）

【パネルディスカッション】 19:00～19:50

パネリスト 三國 陽夫（前掲）

速水 優（前日本銀行総裁 聖学院大学総合研究所全学教授 国際金融研究室長）

柴田 武男（聖学院大学政治経済学部教授）

コーディネータ 眞野輝彦氏（聖学院大学大学院・総合研究所特任教授）

聖学院大学（学長 阿久戸光晴） 埼玉県上尾市戸崎1-1

1988年設立。大学は3学部6学科（政治経済／コミュニティ政策／欧米文化／日本文化／児童／人間福祉学科）のほか、大学院、総合研究所を有する。

総合研究所国際金融研究室では、グローバル化が浸透する世界的環境変化のなかで、学内の有志を集い、国際金融問題の研究を深化させることにある。研究成果や意見は種々の形で国内外に公表し、シンポジウムなどを開催、ホームページを公開している。

国際金融研究室 <http://www.seig.ac.jp/souken/kinyu/kinyu.php>

取材の申し込みは、下記へお願いします。

聖学院大学 蔭田

電話（ダイヤルイン）048-725-5524 FAX 048-781-0421

e-mail pr@seig.ac.jp ホームページ <http://www.seigakuin.jp/>

2006 聖学院大学国際金融シンポジウム

黒字亡国論 — 構造改革・意識改革 —

プロフィール



三國 陽夫 (みくに・あきお)
株式会社 三國事務所 代表取締役

1939年生まれ。1963年東京大学法学部卒業。同年野村證券株式会社入社。1969年9月CFA協会認定証券アナリスト。1975年2月野村證券株式会社退社。同年7月株式会社三國事務所代表取締役就任。現在に至る。著書『これからの企業金融・財務戦略』『市場に聞く！日本経済・金融の改革』『円の経決算』『黒字亡国』他。



柴田 武男 (しばた・たけお)
聖学院大学政治経済学部教授

1977年横浜国立大学経済学部経済学科卒業。1984年東京大学大学院経済学研究科第二種博士課程単位取得満期退学。1986年より財団法人日本証券経済研究所研究員。1991年2月同財団法人研究所主任研究員。1991年3月聖学院大学政治経済学部専任講師。1992年から明治大学短期大学部非常勤講師、日本大学商学部大学院ビジネス科非常勤講師を経て、1996年4月より聖学院大学政治経済学部助教授、2003年4月聖学院大学政治経済学部教授。著書『企業は環境を守れるか』他。



速水 優 (はやみ・まさる)
前日本銀行総裁、聖学院大学総合研究所全学教授

1925年生まれ。1947年東京商科大学（現一橋大学）卒。1947年日本銀行入行後、大分支店長、ロンドン駐在参事、外国局長、名古屋支店長等を経て、1978年理事。その後農産物の社長、会長を歴任し、1991年経済同友会代表幹事。1998年日本銀行総裁に就任し2003年3月任期満了により退任。現在、学校法人聖学院名誉理事長・理事、聖学院大学総合研究所全学教授の他、(財)歴史民族博物館振興会理事長、東京女子大学評議員、東洋英和女学院評議員を兼任。〔著書〕『土の器』『円が尊敬される日』『中央銀行の独立性と金融政策』『強い円と強い経済』他。



眞野 輝彦 (まの・てるひこ)
聖学院大学大学院・聖学院大学総合研究所特任教授

1934年生まれ。1956年一橋大学経済学部卒。同年東京銀行入行。1985年取締役。1996年合併により東京三菱銀行参事。1999年東京リサーチインターナショナル参事。2000年より、聖学院大学大学院特任教授。2005年より聖学院大学総合研究所特任教授。著書に、『真の豊かさ 国際貢献』（三田出版）『円高と変わる経済』（日本食糧新聞社）『日本の論点99』（=執筆団、文芸春秋編）など多数。